

○9 番 (大原 孝芳) 私は1問を用意いたしました。

まず、一般質問を始める前に一言お話をしたいと思います。

今日は3月12日ということで、先日、3・11、東日本大震災ということで、この議場でも皆さんで黙禱をしました。

私は、毎回、3月議会においては3月11日のことを申しております。私にとっても非常に大きな、議員生活の中で大きな節目でもありました。

中川村にも、飯舘村、特に放射能汚染のひどかった飯舘村の皆さんが中川村を訪れて、一緒に少しの時間、どんちゃん祭りなんかで心を癒していただいたような経緯もございます。

それから、私も、議会でも、ここにいらっしゃる皆さんはその当時はいらっしゃらなかったもんですから多分分かんないと思うんですが、当時の議会では、相馬市のほうへ1回、被災したところを見に行きました。

それ以降、議会としては動きませんが、私と同市の議員たちは数名で何度も飯舘村に足を運び、南相馬市、あるいは石巻市とか、そういったところを見て歩きました。

非常に、私たちが過去にもう本当に見たことないような光景でありますし、テレビで皆さんたちも見ていただいていると思いますが、想像を絶するような風景でございました。

そして、もう今日が——先日ですか、15年ということで、本当に、もうそんなにたったのかということと、つい先日のような気がします。

私たち、遠くの中川村に住んでいる我々ができることってというのは本当に微力なんですけど、せめてあのときのことに心を寄せて記憶に残してあげることが私たちにできることではないでしょうか。

ぜひ、そんなことで、中川村の住民の方にも飯舘村の方とつながっている方がまだいらっやいます。その方を通じて私のところにも連絡があったんですが、中川村の皆さんにはお世話になりましたと、それで、ぜひ1回、民間クラスで中川村を訪れてそういったお礼をしたいっていうようなお話もしていただいております。

そのときには、村民の皆さんにぜひ参加していただいて、当時のお話、苦労話、あるいは一緒にどんちゃん祭りをした思い出なんかを話していただくと本当にいいと思います。

ぜひ中川村の村民の皆さんにもあの記憶を残していただいて、また語り継いでいただく、それがせめて彼らにできることじゃないかと思っております。

では一般質問に入ります。

私は「村政に「賢く縮む」スマートシュリンクという選択肢はあるか」という題で質問したいと思います。

私もそんなに前から知っている言葉じゃなかったもんですから、にわか勉強なんですけど、スマートシュリンクとは、人口減少を前提に地域の行政や公共サービ

スの在り方を見直し、住民の生活の質を維持、向上させながらインフラや公共サービスを賢く集約して効率化を図る考え方と、そういうふうに記されております。

ちょっとどういう——スマートシュリンクという言葉は、国、あるいは県でも共有されていますので、ちょっと今までの経緯を、背景を、ちょっと私、新聞の記事なんですけど、ちょっと読ませていただいて、皆さんと共有したいと思いますので、よろしく願いいたします。

この背景は10年間を反省しようということでございます。この10年間の人口をめぐる国のかじ取りへの反省があるということです。

民間の有識者による日本創生会議は、2014年、主に出産を担う20～29歳の女性が2040年までに半減する、全国の約半数の市区町村が消滅可能性にさらされるというレポートを発表しました。

指摘を踏まえ、第2次安倍政権は人口減少に歯止めをかけることを狙いとする地方創生をスタートさせました。地方に雇用を生むための産業振興を後押しし、若い世代が安心して結婚、子育ての希望をかなえられる環境整備を進める施策に予算を投じ、合計特殊出生率の底上げを狙ったわけです。

とりわけ、合計特殊出生率の低い東京への人口集中が少子化につながると見て、地方への人の流れを生み出すことに力を入れました。

2060年には1億人程度の人口水準を維持するという目標の下、各地で都市部からの移住に支援金を出し、子どもの医療費や給食費を無償化する動きが広まりましたが、地域間で人口を奪い合う競争が過熱しました。

それでも出生率は改善しなかったんです。東京一極集中の流れも変わらず、コロナ下はさらに強まっています。

こうした10年間の結果を踏まえ、石破政権時で共創性政策をバージョンアップさせたのが2.0ということです。人口減少を正面から受け止めるとして基本的な認識を一新しました。

当面は人が減っていくことを前提に、地方の暮らしや経済を機能させる適応策としてデジタル技術などを活用しながら生活に必要なサービスを再構築し、生産性を高め、地域の人手不足に対応するとしてインフラの再編や居住空間のコンパクト化にも触れ、住民の基本的な生活を支える仕組みをどのように守るかが喫緊の課題としました。

2025年10月に発足した高市政権でも同じようなことを共有しておるというふうにされております。

それから、全国知事会でも2025年11月には人口減少の提言ということで、スマートシュリンクの視点から社会の仕組みや行政の見直しを公共施設の統廃合を考える必要にということに触れております。

ですので、決して目新しい言葉であり政策ではないんですが、なかなか私たちの身近にあるような言葉でもなく、そういう背景で、私はちょっと今回質問した

いと思います。

まず提出した書面の①なのですが、今申しましたように、少子化が進み、人口減少の流れが強まっているということでもあります。原因は、今のような、なかなかお金を投じて結果が出ないという結論でございます。

そうしたとき、今まで国は異次元の少子化対策を実行すれば人口減少は止まるといった考えで対策を講じてきたと、村でも移住者を対象とした空き家活用、そして子育てしやすい環境の整備等の対策を実行してきました。しかし、なかなか少子化、人口減少は改善されていません。

人口が増加する地域に戻そうとする意識は当然残っていますし、それは対策としてしなければならないと思います。

しかし、今やらなければならないことは、難しい人口対策、人口減対策、少子化に大きなお金を、財力を入れてやるということよりも、人口が減るということはある程度認めるというか、やむない、言葉はよくないんですが。

そのことよりも、まずこれを現実と受け止めて、人口が減っても住民一人一人の「ウェルビーイング」って書いてあります。日本語では心身の充実が長期的に続く幸福な状態。周りの人口が減ってきてても住民が幸福感を損なわないようなことを目指すということがスマートシュリンクという考え方でございます。

私は、こうした記事、あるいは情報を得たときに本当にすんと腑に落ちたわけです。

昨日もいろんな、議員の皆さんが、財政の問題、それから今後の村の在り方、それから人口減少に対して非常に危惧されている。これはここにいる議員全ての方もそうだし、職員の課長の皆さんたちもそういったことは絶対に思っていると思います。

しかしながら、対処的なことはできるんですが、初歩的な、何かこれをやれば必ず直ると、そういうような状況じゃないと思います。

したがって、人口が減るということを、減っていくということをまず認めなきゃいけない。

それで、今のこの事態を、何か手を打ちながら、今の状態で皆さんたちが幸せに、失望感じゃなく、何とかこの地域で生きて、中川村で生きていこう、そして何とか改善していこうという、その気持ちをまずリセットしなきゃいけない。そういう考え方を私はスマートシュリンクの考え方というふうに理解しております。

今るる述べましたが、まず村長にこういったスマートシュリンクという言葉と考え方についてお答えをいただきたいと思います。

○村 長 スマートシュリンクということについてインターネットでも幾つか説明がされておりますので、私も読みました。

ちょっと、その前に、人口減少——村は、高度経済成長の後、平成の時代になって施設をいろいろ造ってまいりました。当然 30 年くらい前なんですけど、その以

前からずっと公共施設は整備してきた経過がございます。

それで、今思っているところを少し述べさせていただきます。

スマートシュリンクということではありませんが、その当時——平成5年であります。例えば下水道事業です。

このものについては、集合処理する区域と個別の処理をする区域に分けて、法律にのっとって、つまり都市計画の決定をして事業を進めてきたという経過がございます。

今考えてみますと、この計画自体が、やはり人口がこれから増えていく、なぜかっていうと、下水道を整えることによって人々の生活水準が向上すると、そして土地の価値も上がってくる、そうして人がだんだん集まってきて、いろんな意味で好転していくというところで下水道を設置しようということになったんです。

でも、これも、その当時の1人当たりの汚水量の計算は、今からでは考えられないくらい過大なものであります。したがって、今このことが下水道審議会でも問題視されておりますし、人口がやはり減ってまいっておりますので、処理区の統合ですとか、あるいは、効率が悪いところについては個別処理に戻すべきと、こういうことを国のほうでも考えておるところであります。

これが一つ、今、議員に言われた中で、私も携わってきたことがございますので、一番これは思い返されるところでございます。

それと、もう一つ、似たような例で水道事業です。

これも、村は、簡易水道、給水人口5,000人未満の水道から出発しました。ひところは整備が進み、いろんな施設もでき、給水人口が5,000人を超えてまいりましたので、いわゆる水道、上水道に切り替えてきたところでございます。

しかしながら、やはり人口減少の中で、給水人口は今5,000人をもう割っておりますし、これからも減っていく見込みという中で、水道の在り方、これは水道を維持していく技術者の問題もあるんですけど、それを市町村が確保する難しさ、こういうこともありますので、国、県は、これをできるだけ地域統合していきなさいと、こういう方針も持っております。

その一つが、私どものところでは、飯島町から給水を受けつつ、沢入上水を、できるだけ将来エネルギーがなくても安定的に上水化できる新しい施設を今造ろうとしております。

こういうことも、これからの人口減の中で——こういうこともっていうのは単独でやることと地域連携の中で給水を賄っていくということでございますので、こういうこともスマートシュリンクの一つの今思うと考え方、実施例ではないのかというようなことを思ひまして、まずそのことを申し上げた上でお答えをさせていただきます。と思っています。

例えば、現在策定を進めております立地適正化計画でございますが、これにつきましては、人口減少社会においても持続可能な地域としていられるように、一

つの方法としてコンパクト・アンド・ネットワークの地域づくりを進めるための計画ということに大きくはなっております。

都市機能が維持するようにコンパクト化を目指し、一方で、周辺部が荒廃することがないように周辺部とネットワークで結んでいこうという計画でございます。

議員がおっしゃられるように、人口減少社会においても個々のよりよい生存といますか、よりよく生活が続けられる、ウェルビーイングってということが損なわれないことを目指すことにつきましては、これからの時代において重要な視点だというふうに私も認識しており、この計画策定に取り組んでいるところでございます。

今、新しい学校の在り方が検討されています。それは新しい義務教育学校の新設という形で表現されるわけでありまして、生まれる子どもが20人を下回るようになって、現実にもうこれは20人を下回っておりますし、もう1桁台になる可能性も——1桁っていうか、10人を切るようになる時代ももうじきやってくると、こういうことでございまして、従来の小学校、中学校の学びを見直し、地域の住民もその学びに加わっていくという学びの新しい方向が模索されているこの機会には、既存の2小学校の在り方検討もされなければならないというふうに思います。

ここでちょっと申し上げますけれども、新聞で、最近ですけど、ありました。全国の小中高の公立学校の先生方が3,800人くらい不足しているということで、危機的な大変な状況であるということが言われております。

教育長にもお話を聞きましたが、退職しても簡単に退職できない、できなくて、ここの学校に行ってもらわないと困るということで、もう退職後の自分の生活も制約されているという現実のお話を聞いております、

特に公立学校の教員が不足している、そのしわ寄せが特に小規模校に来ているということのようでもあります。

言い方は変なんですけど、この際、やはり人口減の中で検討してきて、東西の小学校を1つの学校にしましょう、そうして、そのあれとして、小中のギャップといますか、義務教育学校でありますので、いわゆる小学校から中学校へ行くときに段階的なものがうまくスムーズにいくような教育課程の変更、こういうことが今まさに検討されているっていうのはちょうどいいタイミングだなというふうに思います。

今、建設に関しては紆余曲折ありますけれども、いろんな大きな中でこの動きはもう止められないだろうと、それで、今やる必要があるだろうということは、スマートシュリンクではないんですけど、人口減少社会の中であって、私も、特にこれは、もう今やらないと次の世代で大変なことになるという意味で、前に進めたいということでございます。

ちょっと余分に申し上げてしまいましたが、そういうことで、東西小学校の統

合に合わせて公共施設を考える、空き小学校の活用でございます。あるいは、廃校にしてしまうという結論もあるかもしれません。こういうこともスマートシュリンクの考えをもってなされることだろうというふうには考えております。

○9 番 (大原 孝芳) 今、村長のほうからお話しいただきました。

今、令和7年度にやってきた事業の中でそういったことも提案していただきまして、スマートシュリンクって言葉を先行して使うってということが決していることじゃないので、ただ、考え方としては既にやっているというようなお話もありますし、そういうところは意識されているというふうに受け取りました。

それで、ちょっと話はそれます——それることはないんですけど、私が昨日からの議員たちのいろんな一般質問を聞いていて思うことは、やっぱり——去年の11月に中長期の財政計画を出していただきましたよね。それから、やっぱり——あれを住民も見えています。それで、これから、本当にちょっと、どうなるのかなというような思いも、私も正直、あれを見たときに、じゃ大変なことになっているなっていうことを思いました。

しかしながら、昨日、7番議員もおっしゃっていましたが、そんなに将来に夢がないかっていうと、そうでもないんですよ。

今までは、財政の中では本当に中川村もいい状態で来て、20年前に合併するかしないかっていう話があって、自立してこの村をやっていきましょうよって、それでみんな頑張って、前村長が3期やって、それで今、現村長が3期目をやっているわけなんです。

ずっといい状態で来たんです。それで、ここへ来て一気に、あれ、どういうふうになったのかなっていうような、やっぱりそれは、私が思うに、人口減と、それから、大型事業が今まではあまりなかったんですよ。最近、本当に思ったのは、歴史館で4億円とか、今までそういう大きな事業って本当になかったんです。

ですので、基金もそこそこたまってきましたし、何かこのままでうまくいくんじゃないかと思ったときに、こういった今回のような中長期の財政計画を出さざるを得ないような状況になったわけです。

でも、これは本当にいいことだったんですよ。やっぱりこれがないと、やっぱり、蓋を開けてみてこんなはずじゃなかったじゃなくて、これは、もう一つの、私は今回がターニングポイントになると思います。

それで、スマートシュリンクとリンクさせるんですが、そうしたときに、やっぱり住民の皆さんたちも、これをどういうふうに考えているかって——ただ、議会も、これを通していくわけですから、当然責任があるわけですよ。行政側も立案しますよね。それで、これもついで——ついでなんて言っちゃ失礼だけど、認めたら私たちにも責任あるもんですから、私たちもやっぱり言わなきゃいけない。

そうしたときに、こういった住民たちの覚悟って言ったら失礼なんですけど、よく分かっていただかないと、昨日、島崎議員が言っていたような、ごめんな

さい、7番議員が言っていたような、住民も誤解されている部分があると思うんですよ。

ですから、これは、しっかり分かっていただいて、それで、説明を行政側——私たちの住民に対する説明不足で住民がもし誤解していたら、これはお互いに不幸ですよ。ですので、ぜひ、いろんな要素はありますけど、分かっていたいただきたい、住民にも理解する努力をしていただきたい、私はそんなふうに思います。

それで、次の、2番目じゃなくて、その次の下へ入りますけど、昨日、7番議員もよく突っ込んで言っていました、やっぱり住民あつての話ですので、住民がどういうふうに理解していくかっていうことが私はこれから大事だと思います。

それで、スマートシュリンクっていう考え方は——村長は、今議会の中で、お話の中で、住民サービスの低下を招かないように努めるというような文言で説明されました。

だけど、絶対、住民がこれは住民サービス低下って考えれば、あれですよ、住民サービス低下になっちゃうんですよ。

ですので、大草のチャオがなくなるっていうことも、非常に当事者にとってはすごく深刻な問題なんです。それで、これがどんどんなっていってたら私たちはどうなるのかと、ほっぽかされたっていうような話になっていってしまいます。

ぜひ、私は、今後やることで何が大事かっていうと、まず住民の皆さんに、今の状況で、今後人口が減って行って、それで学校も新しくできてくる、それで、後に大型工事がいろいろつながっているっていうような中で、じゃ私たちが行政にやっていただかなきゃならないこと、でも俺たちも何かしないと持たないよねっていう——村長は、私、選挙のときにも協働っていう言葉を使いましたよね。もうこれがなくちゃ駄目なんですよ。

ですので、外で行政は何やっているんだ議員は何やっているんだっていう話では、この村は持たないと思いますよ。

だから、今回は本当に、私、いいチャンスですよ。皆さんたちがお互いに足りないところをみんなで創造していく、つくっていく、協働の精神ですよ。ですので、ぜひそういうことが起きてほしいし、そういうことを、うねりをつくっていかなくちゃいけない。それには、まず住民との話合いですよ、それを持たなくちゃいけないと思うんですよ。

それで、村長は、当時、初めて就任したときは、各地区を回って、1期目でしたか、住民と色々なお話をされました、各地区を回って。それで、2期目のときは多分なかったかと思います。それで3期目ですよ。そういうことも、すごく大変だ、見ていて大変だと思いました、各地区を回って。

しかしながら、今、昨日も7番議員の話の中で、いつどういうタイミングでやるかっていうような話だったんですけど、議会も今年改選ですのであれなんですけど、やっぱり住民たちが、やっぱりこれを理解していただくためには、何らか

の直接対話が必要じゃないかと私は考えるんです。

そこを、もしできて、そして今のような問題点があつて、それから学校は今後どうなるのか、教育委員会はしっかりいろんな基本的なものは持っていていているもんですから、じゃその後、私たち大丈夫だよと、これからみんなで頑張つて幸せになろうねっていうような雰囲気の場合を住民と持っていたきたいと思うんですけど、どうでしょうか。

○村長 7番議員の御質問と重複するかと思います——御質問というか、お答えと重複するかと思いますけれども、お答えをさせていただきます。

スマートシュリンクという言葉に限らず、これからの村政においては、歳入がどういうふうに確保されるのかとか、各種事業の抜本的な見直し、そして公共施設の集約化といった取組を避けて通ることはできないだろうというふうに思っております。

何より重要な御指摘であります住民サービスの低下を招かないように努めること、そのためには村の現状や背景を住民の皆さんに正しく理解して納得していただくことが必要であるということに関しては、為政者である私としての基本姿勢であるべきでありまして、改めて、このことについて、議員から言われたことを重く受け止めておる次第であります。

では、住民の皆さんに理解していただかなければならない背景とは何なのかということでございます。それは、議員から提供いただいた資料に示されているように、もはやこれはお金だけの問題ではないということだと思います。

これからは、道路を直す人ですとか、お年寄りを看護、介護する人、農業や製造業に従事する人など、働く人——人手そのものが日本中で足りなくなってまいります。今までどおりの数を維持することは難しいわけでありまして、この難しい現実こそが施設を集約して賢く縮まなければならない最大の背景だというふうに思います。

そうした中で、私は協働の村づくりを掲げたわけでございますけれども、住民の皆さんとの議論は当然欠かせないという御指摘もそのとおりでございます。

これまでも計画をつくるたびに説明会を開いたりして意見を聞く機会は設けてまいりました。しかし、それが村の現状や背景を納得してもらうレベルに達していたかといえば、十分ではなかったというふうに反省をしております。

つまり、財政的な裏づけ、この見通し、こういったものがあつて村はいろいろな事業が行えるわけでありまして、そこら辺のことの説明、そういう背景も含めて説明をしてこなかったという反省を持っているということでございます。

事業の見直しや施設の集約化等を進めるに当たりましては、まず初めに村の財政状況や人手不足が非常に深刻な状態になっていることといった情報をお示しし、その上で、限られた資源の中でサービスの質を落とさないためにどうしていくのか、現状をありのままに理解していただいた上で住民の皆さんとよく議論し、納得解を見つけ出していき、これからの協働の村づくりにはこのことが不可欠で

あろうと思っております。

7番議員のときにもお答えしましたが、今、どういう手順でこれを進めて、住民の皆さん、もちろん議会の議員の皆さん、そして、村にはいろんな事業者もいます。こういった皆さんと、これから村がやろうとしていること、現状はこうなんですけどっていうことをどういう手法で説明していくかっていうことは、今、手順とかはきちんと持っておりませんが、まず、これは、7番議員にもお答えしたとおり、まずやらなければならないことだろうと思っております。

それから、1つの背景としては、やはりこれからは、施設をどんどん閉鎖するっていうんじゃなくて、維持すべきものは維持する、統合して新しくこうやって造るものは造りながら、要らないものはもう思い切って廃止する、これからはこういうことを住民の皆さんにきちんと提示した上で進めなければ協働の村づくりにはならんのだろうと思っておりますので、そういう覚悟で、今、議員の御質問も受ける中で、改めてそういうふうに決意をしておるところでございます。

○9 番 (大原 孝芳) スマートシュリンクという言葉も、覚えてくれなくてもいいんですけど、これに対して、小峰隆夫さんっていう現在大正大学の客員教授をやられている方がいらっしゃいます。以前、ずっと国のほうの審議会、委員会なんかをやっていた方がスマートシュリンクに対しては相当詳しいそうです。

それで、彼の言っていることの中にも、例えば、今を憂いているんじゃないで、人口が——そして、子どもたちは、学校を出れば、一回出てきますよね、都会へ村内から出ていきますよね。だけど、今私たちにできることは、その子たちが、どっかへ行ってしまふかもしれないけど、いずれ帰ってきたときに帰ってこられる場所をつくっておいてやるのが今の私たちの仕事じゃないかと、そんなようにもおっしゃっています。

ですから、何でも、一極集中をなぜしちゃうかって、理由があって行っちゃうわけですよ、子どもたち。

あるいは、初任給が、今は大卒でもあれですよ、30万円ぐらいのクラスありますよね。そんなところと、例えば、失礼だけど公務員の給料を比べれば、公務員さんってもっと低いもんですから、公務員の成り手が少ないっていうような意見もありますよね。都会のほう絶対がいいんですよ、給料は。

ですので、そうなる理由があって行ってしまうんですよ。その人たちを帰って来いって引き止めても、なかなか止まらないんですよ。

だけど、いずれ中川村から出ていった子が帰ってきたときに、中川村がきちんとあって、御両親が元気でおってくれたり、幸せだっておってくれば、私たちの子孫も帰ってくるんじゃないかっていうようなことも言われています。

ですので、その基盤を——それを持続可能っていうんですかね。

だから、その基盤を——今私たちができることは、それをつくっていくと、それが私たちの、行政、あるいは議会、そして住民の皆さんを巻き込んだ運動にしていかなきゃいけない、そういうことを、このいろんな、スマートシュリンクに

接して考えました。

もしこの考え方にそんなのおかしいっていう方がいらっしゃれば、それも結構ですよ。

しかし、現実をまず受け止めていただくということが私の今回の一般質問の主題でございますので、ぜひまた、そんなことも御理解いただいて行政のほうは進めていっていただきたいし、ぜひ議会の中でも、またこういった議論もしていただくといいかなと、こんなことを考えました。

以上で一般質問を終わります。